

1 研究主題

(1) 研究主題

「言語を介して能動的に関わる力の育成」

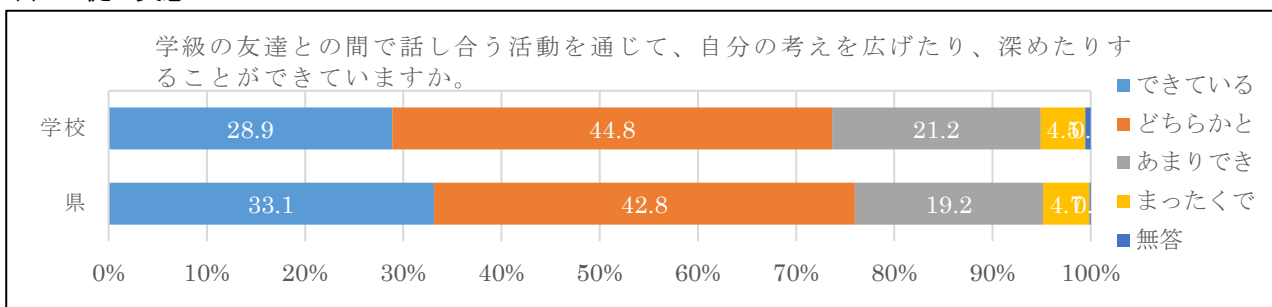
キーワード 「伝える力」「訊き合う活動」「フィードバック」

(2) 研究主題設定の意図

問題は、授業で話し合い活動をして、自分の考えや思いが相手に伝わっていないため、自分の考えが広がったり深まったりしていない点にある。自分の考えを持ってグループに伝えない生徒、ただ一方的に自分の意見を述べるだけの生徒、意見を聞いても無反応な生徒が多く見られた。

そこで、「伝える力」を「訊き合う活動」、「フィードバック」を指導過程に位置づけることで、育成することを目標とする。

(3) 生徒の実態



2 研究の具体

(1) 「伝える力」

本校では伝える力を「相手に応じて自分の考えを言葉で的確に表現する力」とする。

教科横断的に「伝える力」の育成に取り組み、評価は「～しようとしている」という、関心、意欲、態度ではかることとする。

(2) 「訊き合う活動」

全教科で、「話し合い活動」を確認、質問することで「訊き合う活動」に高める。

「訊き合う活動」の成立要件として、次の4点を共通実践する。

- 活動人数を指定する。(4人を原則とし、机を合わせ方や体の向きなど)
- 話し合いの流れを可視化する。(ホワイトボード等を使う)
- 質問する場を意識的に設定する。(時間を区切るなど、見通しを持たせる)
- 質問の際の観点や話型を示す。(どのような質問をすればよいかなど)

(3) 「フィードバック」

従来の学習内容を振り返るから、学びの過程を振り返る「フィードバック」とする。

- 相手に伝わったかの視点から「自分の学びの過程」をメタ認知することで再構成する。

3 研究の検証及び改善の手立て

(1) 研究の検証

1年目として、全教科で「訊き合う活動」「フィードバック」を指導過程に位置づけ授業実践をしたが、教科により特性もあり、共通理解・実践が難しい面が明らかになった。

(2) 改善の手立て

- 生徒が学校生活の中で「伝える力」を発揮する場の設定
- 全教科で「訊き合う活動」、「フィードバック」を位置づけることによる指導過程の改善